

第2回「人間の安全保障と平和構築」～ 2022年5月17日 実施報告

2022年5月17日(火)午後7時05分から、上智大学グローバル教育センターが主催する連続セミナー「人間の安全保障と平和構築」の2022年度の第2回目が、オンラインにて開催されました。当日は、世界中から200人近い方が参加されました。

この連続セミナーは、人間の安全保障と平和構築に関し、日本を代表する専門家や政策責任者を講師としてお迎えし、学生や市民、外交官やNGO職員、国連職員、政府職員、マスコミや企業など、多様な分野から集まった人たちが、共にグローバルな課題について議論を深め、解決策を探っていくことを目的にしています。2016年4月より実施していますが、2021年度より、新型コロナウイルス感染症の影響のためオンラインで実施しています。

本年度第2回目のセミナーでは、立憲民主党の前代表である、枝野幸男衆議院議員に「日本の安全保障と『支え合う社会』」をテーマにご講演頂きました。



枝野幸男衆議院議員

冒頭挨拶では、伊呂原 隆・上智大学教授（学務担当副学長）が、開始以来連続セミナーが多くの学生から高い評価を得ていることに触れ、2017年には学内で学生から最も高い評価を得た授業に送られる「グッドプラクティス賞」を受賞したことを紹介しました。そして、講師を引き受けてくださった枝野衆議院議員へ深い謝意の念が示されました。

続いて、出口 真紀子・上智大学教授（グローバル教育センター長）が、本学の教育精神である「他者のために・他者とともに」と本講演テーマの「支え合う社会」の共通点に触れ、他者を思いやる社会を構築するために必要な議論ができれば、と期待を述べました。

その後、枝野幸男議員による講演が行われました。まず、2月末から続いているウクライナ侵攻に触れ、日米安全保障条約の意義を強調すると共に、各国が内政面において克服すべき点に取り組まないと紛争の抑止はできないと語り、その上で「支え合う日本を作っていく」ことの意義を強調しました。「日本のここ30年ぐらいは従来的な経済成長を目指すために、非正規雇用の拡大等国内の矛盾を広げてきた」と述べ、従来型の経済成長が難しい中で、新しい社会のあり方を考えていく必要があると話しました。

そして、「あなたが思う豊かさとは何ですか？」と学生に問いかけました。「高度経済成長期の日本人が求めた物質的な豊かさは、現代の私たちが思う豊かさではない。ものがなかった時代から、ありふれている時代へ。豊かさの拡大の中で、人々が「喜び」を得る基準が変わってきた。本当に欲しいものは何だろうとなったとき、今それは「安心」なのではないか。」と語りました。さらに、「『奨学金の借金が返せるのか、正規雇用を勝ち取れるか』という不安が常にある現代社会。介護で言うと、どれだけのお金が必要で、何年続くか、全く予想できないし、多く人は金銭的に余裕がない。だからこそ、個人の預貯金がなくても、必要な時に『そこそこの介護が受けられる』という安心感が必要だ。」と強調しました。

日本経済については、「なぜ日本の景気がずっと悪いか、真の理由を知っていますか？」と学生に問いかけました。そして、「日本のバブル崩壊後の経済成長率はトータルで約1%、この中で輸出の経済成長率は4~5%。だから、輸出が悪いのではない。日本の経済の約6割は国内消費で成り立っている。つまり、この6割がほぼゼロ成長

だから、日本の経済は成長していない。先進国は皆、内需主導型経済に移行しているのに、日本は遅れている。昔のように輸出による経済成長はもうできない。成長できないので、国民の中でフラストレーションが溜まり、世の中の分断が広がるという、まさに今起きていることに繋がってしまう。また為替の変動で日本経済が振り回されないためにも、内需主導型で、経済を国内で回していくことが重要」と力説しました。

途上国との関係性については、「もちろん、途上国を支えることも中・長期的には経済的メリットがある。中産階級が増えて資産家が増えれば、先進国の輸出にとって有利だからだ」と述べました。そして、「人類は間違いを起こすが、それを修正して進んできた」と語り、社会の在り方を見つめ直す必要性を示しました。

講演の後、コメンテーターを務めた出口 真紀子・上智大学教授が、「今の経済モデルが途上国の搾取の上に成り立っており、それが使えなくなったら国内で安価な労働力を生み出そうという流れになる、という点がとても勉強になった」と述べ、枝野衆議院議員へ謝意を伝えました。

その後、質疑応答に入り、会場からは、「政治に対して忌避感がある人がいるように思うがどうか」、「安心できる社会を作る際の財源をどうするのか」、「ウクライナからの難民なども含め、日本の難民支援をどうすべきか」など、多くの質問が出されました。枝野議員は、その一つ一つに対して、丁寧に返答頂き、セミナーも盛り上がりました。

最後に、この連続セミナーの企画と司会を務める東 大作・上智大学グローバル教育センター教授が、「人間の安全保障という考え方は、国際的な問題を考える時だけでなく、日本の国内において、どう人々の安全や尊厳を保障するかを考える上でも非常に大事な基軸になる。安全保障の意味でも、社会保障の意味でも、どう安心できる社会を作っていけるのか、引き続き議論を続けていきたい」と述べ、セミナーを締めくくりました。

(以上)